

2019 年度後期 マレーシア研修

「マレーシアの自然と環境問題」募集要項（対象 全学部学生）

開発されていないタマンネガラ熱帯林や、エビの養殖池などのために開発が進むマングローブ林、サラダ油などの原料を生産する油ヤシ植林地などを訪ねて、手付かずの自然を体感し、植林ボランティアや収穫作業を体験して、私たちの生活とのつながりの中で持続可能な開発について考えます。ゾウとオラウータンのレスキューセンターも訪問予定です。マレーシアは、マレーシア人、中国人、インド人、先住民などの多民族が共生する国であり、異文化共生を学ぶことができます。マレーシアでは英語が普及しており、現地での生活や交流は英語で行います。歴史的背景を学ぶためにマラッカをマレーシア国民大学の学生と一緒に訪問した後、大学で学生との交流を予定しています。研修には、現代社会学科教員が引率します。

<研修期間> 2019年 8月19日（月）～28日（水）（10日間）

<日程>

6月末 事前講義（90分）

7月初 事前講義（360分）

8月

19日（月）福岡からクアラルンプルへ移動 Cititel Mid-valley 泊

20日（火）クアラルンプルからタマンネガラ国立公園（クアラタハン）へ移動
途中、象サンクチュアリー見学 Mutiara Taman Negara Resort 泊

21日（水）タマンネガラ国立公園内観察 Mutiara Taman Negara Resort 泊

22日（木）油やし・ゴム植林地訪問、見学・体験 キャメロンハイランド泊

23日（金）ブキメラ・オラウータンセンター見学 タイピン泊

24日（土）マングローブ林見学とマングローブ植林ボランティア クアラ・セパタン泊

25日（日）マレーシア国民大学学生と合流し、マラッカ移動。 マラッカ泊

26日（月）マラッカ市街見学後、クアラルンプルへ移動。 Cititel Mid-valley 泊

27日（火）マレーシア国民大学訪問 学生と交流。夜、クアラルンプル発 機中泊

28日（水）福岡到着。

10月 事後講義（180分）、学内報告会

<実施体制>

協力 マレーシア国民大学（学生交流）、半島マレーシア野生生物国立公園局（職員が同行）
引率 佐々木 浩 現代社会学部教授（タイ、マレーシアなどで長年カワウソを研究）

募集学生数 10名から15名

<経費（概算）> 総額15万円程度

航空運賃（50000円）及び保険代（7000円程度）は事前払い込みし、現地費用（9万程度）は現金で持参し、両替後、直接支払います。

- | | | |
|--|----|--------|
| 1. エアアジア航空航空券50000円、ホテル代（原則Twin）35000円 | 小計 | 85000円 |
| 2. 移動（車借り上げ等、国立公園局職員が運転） | 小計 | 30000円 |
| 3. 食費 | 小計 | 15000円 |
| 4. アクティビティ（キャノピーウォーク、ナイトウォーク等） | 小計 | 13000円 |

<単位認定>

アジア文化特殊講義 2単位（アジア文化学科以外の学生は自由選択単位で卒業単位認定）

<申し込み方法>

期間：4月22日（金）から5月31日（金）17：00

「マレーシア研修申込書&誓約書」国際交流センター（1号館1階）に提出
申し込み順となりますので、早めに申し込みをして下さい。借り上げる車の都合で、参加数を減らす可能性もあります。

<海外旅行保険>

大学指定の海外旅行保険に必ず加入することを前提に申し込みをしてください。

